

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策Ⅲ-4-4 文化財の保存・継承と活用
---------	-------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	文化財課長 丹羽野 裕	電話番号	0852-22-6468
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	文化財活用事業
目的	(1) 対象 県民 (2) 意図 子供から高齢者までの幅広い世代に島根県の歴史文化を学習する機会を積極的に提供し、ふるさとを誇りに思う心を醸成することで、県民の心の豊かさの向上に寄与する。
事業概要	県民の「郷土の歴史に対する探究」というニーズを掘り起し、またこれに応えるため、幅広い世代に島根の歴史と文化財を学習する機会を積極的に提供する。

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	子ども塾、いにしえ倶楽部、まちあるきイベントの総参加者数、風土記の丘レンタサイクル等の利用者数	目標値		1,650.0	1,700.0	1,750.0	1,800.0	人
	式・定義	子ども塾・いにしえ倶楽部受講者数+まちあるきイベント総参加者数+風土記の丘レンタサイクル等の利用者数	実績値	1,633.0					
			達成率	-	-	-	-	-	
2	指標名		目標値						
	式・定義		実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	2,590	3,340
うち一般財源 (千円)	1,337	1,705

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状 (客観的事実・データなどに基じた現状)

<ul style="list-style-type: none"> 27年度は、普及活用事業として、心に残る文化財子ども塾(26回)、いにしえ倶楽部(4回)、まちあるきイベント(16回)、風土記の丘レンタサイクル等の貸出(随時)を実施した。 参加者数は、26年度(1,244人)と比較して389人増の1,633人となった。 特に小中学校対象の出前講座である文化財子ども塾は、20~23校程度の募集に対して26校(802人)が応募。

6. 成果があったこと (改善されたこと)

これらの取り組みにより文化財の認知度は高まっており、イベント・講座への参加希望者は多い、H27年度の子ども塾の募集校は23校程度としていたが、要望が多かったため、応募があった全26校で実施した。

7. まだ残っている課題 (現状の何をどのように変更する必要があるのか)

<p>①困っている「状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> 活用事業の多くを担っている埋蔵文化財調査センターの埋蔵文化財調査に伴う業務量が増加しており、子ども塾等の実施回数が限定され、本来の需要に応えづらい状況にある。 風土記の丘周辺には身近にすぐれた史跡(素材)がありながら、十分に活用できていない。
<p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <ul style="list-style-type: none"> 埋蔵文化財調査センターの実施体制の確保が十分にできない。 風土記の丘周辺の史跡の知名度の低さ及び誘致体制や見学ルートの未整備
<p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> 他機関との連携による活用事業の実施 知名度アップにつなげるための効果的な情報発信

8. 今後の方向性 (課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

<ul style="list-style-type: none"> 古代出雲歴史博物館や古代文化センター、市町村教育委員会などと連携しながら効果的な活用事業を実施することで、限られた人員でもなるべく多くの需要に応えられるようにする。 風土記の丘地内の文化財を活用するため、風土記の丘やNPO、公民館等との連携による「まちあるきイベント」を25年度から継続して実施している。今後も関係機関と連携を図りながら効果的な活用事業に努める。
--

9. 追加評価 (任意記載)

--

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。